

第19回身近な水環境の全国一斉調査結果報告

活動のねらい

本活動は平成25年6月の「第10回身近な水環境の全国一斉調査」から続けて参加している活動です。

第19回(令和4年)で連続10回参加しています。活動のねらいは次のとおりです。

- 1、統一的なマニュアルに基づいて河川流域の多くの人たちが調査するので、面的につながりのある結果が得られる。
- 2、調査に参加した人たちとの連携を深めることができる。との背景からパートナー有志が参加しています。

○調査の概要

調査日及び参加者数：令和4年6月5日(日)、6名(パートナー小松、栗原、西條、目次、森田、浅野)

調査内容、方法：統一調査マニュアルに基づく気温、水温、試水水温、パックテストによるCOD測定、透視度、電気伝導度を調査しました。この他、特記事項として水辺の状況・流れ・濁り・散乱ごみ・川の変化についての意見(今と昔)、を実施しました。

調査地点：調査地点は、下記4地点です。

桜川(禊橋)、清明川(水源域、阿見町岡崎3-18-3)、小野川(大井橋)、巴川(新巴川橋下流400mの橋)

○調査結果

調査地点	調査年月日	天候	気温(°C)	試水水温(°C)	透視度(cm)	EC(mS/m)	T-N(mg/l)	T-P(mg/l)	COD測定値(mg/l)		
									1回目	2回目	3回目
桜川(禊橋)	R4.6.5	晴	26	21	38	21.8	—	—	5	5	5
清明川 (水源域、阿見町岡崎3-18-3)	R4.6.5	曇	24	23	80	27.9	—	—	7	7	7
小野川 (大井橋)	R4.6.5	曇	22	20	38.5	21.0	—	—	7	6	7
巴川(新巴川橋下流400mの橋)	R4.6.5	曇	21.5	19.5	68	26.9	—	—	5	7	5

※EC：電気伝導度を表す、数値が低いほど良い。T-N：全窒素、T-P：全リンを表す。COD：水の汚れ具合を表わし、数値が低いほど良い。COD5～10はフナ類、コイ、モツゴが棲める程度の水質です(旧通産省監修、「公害防止の技術と法規」より)。

特記事項

桜川(禊橋)～魚影あり、流れゆるやか。雨あがりか、かなり濁っていた。農業用水の為、ダムとなっていた。

清明川(水源域、阿見町岡崎3-18-3)～水量少なく、散乱ゴミも認められる。小魚跳ねているも、COD値高く水源域として改善の要ありと思われる。

小野川(大井橋)～魚影なく、鳥の声カラスのほかなし。流れゆるやか、水の色うすい灰色。周辺田畑から流入する肥料の影響か？COD値高かった。農業用水取水のための堰と取水門有り。

巴川(新巴川橋下流400mの橋)～極めて緩やかな流れ。

○活動状況の写真



桜川（禊橋）R4.6.5

清明川（阿見町岡崎3—18—3）R4.6.5

小野川（大井橋）R4.6.5

巴川（新巴川橋下流400mの橋）R4.6.5

（パートナー 浅野）